



**ORGANIC FIELD®**

FARM to WEAR



# 農家と一緒に 種から始まる オーガニックへの取り組み 「ORGANIC FIELD®」

オーガニックフィールドは、インドの農家のオーガニック農法への転換を支援し、環境負荷の低減と労働環境の改善を目指す取り組みです。

「コットン・イン・コンバージョン」と呼ばれる移行期間のコットンを買取ることで、農家のオーガニックへの参入を促し、その普及を目指しています。収穫されたコットンは、種の選定から綿花の栽培、糸の生産までをオーガニックのプロセスで管理することでトレーサビリティを担保しています。



## オーガニック農法への移行の必要性 ——

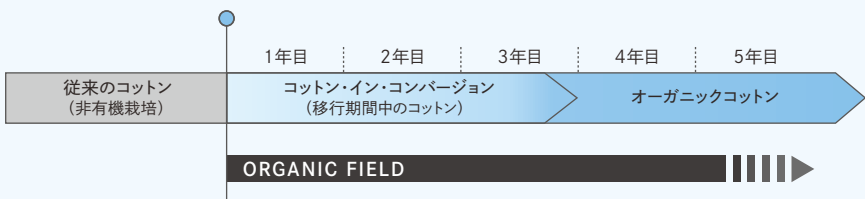
従来のコットン栽培には、何千トンもの農薬や化学肥料などが使用されており、土壌・水・大気の汚染を引き起こしています。これらの化学物質の使用は、無数の生物へ悪影響を及ぼし、生態系のバランスを崩します。また、従来農法による農業は、林業やその他の土地利用とともに、温室効果ガスの年間排出量の大きな割合を占めています。オーガニック農法への転換は地球環境への負荷を軽減するだけでなく、農家の人々の健康を守り、労働環境の改善にもつながっています。

## オーガニックコットンが普及しない理由 ——

世界で生産される綿花のうち、オーガニックコットンはわずか 2.9% \* しかありません。その背景には、オーガニック認証が得られない 3 年間の存在があります。畑のオーガニック化には、土壌の健全化や化学物質の排除など、多くの手間と時間がかかります。この期間中に収穫されるコットンは「コットン・イン・コンバージョン(移行期間中のコットン)」と呼ばれています。オーガニックと同じ栽培方法で育てているにもかかわらず、土壌がオーガニックの基準を満たすまでには一定の期間が必要という理由から、オーガニックコットンとは見なされず、市場で十分な認知や評価がされにくく普及を妨げる要因となっています。

オーガニックフィールドの取り組みではこの課題に向き合い、オーガニック農法の指導だけでなく、移行1年目(1C1)から3年目(1C3)までのコットンにプレミアムを加えて買い取ることで農家の挑戦を後押しし、オーガニック化以降も継続的にサポートします。

\* 出典: Textile Exchange. Materials Market Report 2025



**STYLEM TAKISADA-OSAKA CO.,LTD.**

Maruito Namba Building 11F, 1-2-3  
Minatomachi Naniwa-ku, Osaka  
5560017, Japan  
[www.stylem.co.jp](http://www.stylem.co.jp)

[ORGANIC FIELD Office]  
[organicfield\\_ml@stylem.co.jp](mailto:organicfield_ml@stylem.co.jp)

**STYLEM**

